



保育内容（環境）の指導法

ビオトープなどを整備されている建築士の横田耕明先生をお招きして、植草学園のキャンパス内にある森「植草共生の森」を散策しながら自然環境について学びました。



横田 耕明先生

幼少期の自然体験で感受性を豊かにすることは、その人の人生も豊かにすると言われています。将来、保育士をめざす学生は、自然体験が豊かであってほしいと思います。幸いにも植草学園には、キャンパス内に「共生の森」があります。望めば、いつでも自然体験ができます。自然環境の意義を知り、また五感でその楽しさにふれてほしいと思います。木や草の名前を覚えるだけでなく、生物との繋がりを知り、それぞれに役割があり、いろいろなものはないのだということに気付いてほしいです。



ブランコ。子どもたちのお気に入りです。



植草共生の森入り口



土を掘るとカブトムシの幼虫が出てきました。



今年も美味しいお米が収穫できそうです。

100年の時を経て育った土の話を聞いて感動しました。

自然とのふれあい方や子どもへの注意喚起など大変勉強になりました。

昆虫類、は虫類、鳥類などたくさんの生物が生息していることを知りました。



丸山 鈴菜

短大
児童障害福祉専攻 1年
千葉県立
船橋啓明高等学校出身



眞野 二葉

短大
児童障害福祉専攻 1年
千葉県立
市原八幡高等学校出身



子安 英斗

短大
児童障害福祉専攻 1年
千葉県立
大網高等学校出身

植草学園大学の学びについて

R2年3月に植草学園大学を卒業し、北陸先端科学技術大学院大学に進学した、竹田和輝さんに、植草学園での学びがどのように生かしているかを伺いました。

私は現在、大学院でLD児のICT活用と自己肯定感の向上の関係を研究しています。進学し研究に取り組むことを決めたくっかけは、植草学園大学で学んだ2つのことが影響しています。1つ目は、「障害のある子どものICT活用」について学び、ソフトバンクグループが主催する「ハイブリッド・キッズ・アカデミー」で実際に指導する場に参加したことで、ICT活用の魅力や効果を多くの子どもに伝えたいと考えたことです。2つ目は、仲間と実習やボランティアで関わった子どものエピソードを話し合う機会を、たくさんもつことができた点です。子どもの成長について仲間と意見を交換していく中で、自己肯定感の重要性を改めて感じ、研究していきたいと考えるようになりました。植草学園大学での経験が自分の興味を明確にする重要な要素になりました。



竹田 和輝さん

北陸先端科学技術大学院大学 1年
大学 発達支援教育学科
R2年3月卒業 9期生